

登録コード	J5130300	開講年度	2026				
授業科目	医療経済学				担当教員	増原 宏明	
英文授業名	Health Economics				副担当		
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	月曜・1時限	対象学年	(20カリ対象科目) 経：3年
講義室	経法第1 講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標		授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】	
		経法20加					
		経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。			⇔	専門領域での基礎知識として、医療制度を経済学的思考に基づき評価し、医療の現代的問題や、医療制度改革の狙いを全員が間違いなく論理的に説明できるようになる。	
		経法20加・応用経済					
		専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。			⇔	専門知識を応用・実践する力として、データに基づき医療政策を批判できるようになり、医療政策が与えるインセンティブを踏まえ、これを定性的・定量的に評価できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」		健康長寿					
(3)全学横断特別教育プログラム		ローカル・イノベーター養成コース、ライフクリエイター養成コース					
(4)授業の概要		医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立ちます。まず、医療には多くの規制がかかるため、制度を知らなければなりません。授業の前半では、これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握します。次に、医療制度によって規定されたインセンティブ構造と資源配分の効率性の問題で、これは経済理論によって確認しなければなりません。そこで授業の後半では、医療制度により資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめます。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければなりません。授業の後半の途中で、ミクロ計量経済学的手法を用いて、実証分析の結果を解説しながら確かめます。					
(5)授業計画		第1回 国民医療費の動向 第2回 社会保障と社会保険 第3回 医療保険制度：被用者保険と地域保険 第4回 医療保険制度：一部負担と高額療養費制度 第5回 後期高齢者医療制度 第6回 險の経済学（保険とモラルハザード） 第7回 介護保険制度：要介護認定と居宅サービス 第8回 介護保険制度：施設サービスと地域密着型サービス 第9回 終末期医療の経済分析、小テスト 第10回 医療・介護制度の国際比較 第11回 病院と病院機能 第12回 病院と医療スタッフ 第13回 診療報酬制度 第14回 薬価基準 第15回 医療制度改革 中間試験 第16回 医療サービス需要の経済理論：準備編 第17回 医療サービス需要の経済理論：実践編 第18回 医療サービス需要の実証分析 第19回 供給者誘発需要 第20回 供給者誘発需要の実証分析 第21回 保険の経済学（最適保険）：準備編 第22回 保険の経済学（最適保険）：実践編 第23回 所得分布と健康 第24回 生活習慣と行動変容、小テスト 第25回 医療における計画と規制の経済分析 第26回 医療の機能分化の経済分析 第27回 薬価と医薬品流通 第28回 医療技術の進歩 第29回 医療職の労働市場：臨床研修とマッチング 第30回 医療職の労働市場：医師不足問題、授業アンケート 期末試験					
(6)成績評価の方法		【授業の達成目標】の1番目の達成度を測るために、基礎的な知識の定着を確認するための論述問題式の小テストを2回行う（各20%×2回＝40%）。続いて、【授業の達成目標】のすべての達成度を測るために、論述問題式の間試験（30%）と期末試験（30%）を行う。					
(7)成績評価の基準		小テストと同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」					

(8)事前事後学習の内容	予習・復習用の授業レジュメを、eALPSにPDFファイルとしてアップする。各自で印刷するか、ノートパソコンを持参すること。レジュメは穴埋め式となっているので、予習として1時間かけて穴埋め以外の項目について目を通すこと。講義後には穴埋めされたレジュメを復習し、授業で説明した概念や経済分析手法を自らの手で再度まとめること（2時間程度）。
(9)履修上の注意	医療経済学では、ミクロ経済学をベースとした議論を行います。授業で復習をしながら進めますが、「ミクロ経済学Ⅰ」を事前に履修することをお勧めします。また基礎的な計量経済学の知識も必要となりますので、「計量経済学」の履修もお勧めします。
(10)質問,相談への対応	個別の質問は、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーが無理な場合には、事前にメール（masuhara@shinshu-u.ac.jp）でアポイントメントを取り、来室してください。
【教科書】	特に指定しない
【参考書】	細谷圭・増原宏明・林行成, 医療経済学15講, 978-4883842841, 新世社, 2018年, 2,592円. 橋本英樹・泉田信行編, 医療経済学講義 補訂版, 978-4130421423, 東京大学出版会, 2016年, 3456円. 井伊雅子・五十嵐中・中村良太, 新医療経済学, 978-4535559233, 日本評論社, 2019年, 2,530円. 河口洋行, 医療の経済学 第4版, 978-4535559967, 日本評論社, 2020年, 2750円.